



キステム株式会社

業種：IT

事業内容：システム・ソフトウェアの企画・開発、インターネットサービス、クラウドサービス、情報処理サービス ほか



左から岡山肇子さん、中森一恵さん、目加田桃さん。滋賀県大津市の本社ビル前にて。

自治体から受託した給与支払報告書のデータエントリーをAI-OCRで効率化、現場の負担軽減と時短を実現 正確性を担保するベリファイ工程への人的配置を最適化し、効率化と高品質を両立

滋賀県におけるシステム・ソフトウェア開発や情報処理サービスの最大手、キステム株式会社（大津市）では、アウトソーシング事業にAI-OCRソフトウェア「DynaEye 給与支払報告書OCR」を導入して運用を開始しました。同ソフトウェアは総括表と個人別明細書の自動識別など、給与支払報告書（給報）の読み取りにフォーカスした諸機能により、煩雑なことで知られる給与支払報告書のデータエントリー業務を大幅に効率化するものです。キステムでは同ソフトウェアをシー・ディ・エス・テクノロジー株式会社（以下、CDST）のデータエントリーシステム「G-5Evo（ジーファイブ・エボ）」と連携させて活用し、早くも導入1年目に効率化の手応えを得たといいます。大津市の本社を訪ね、その詳細をうかがいました。

- 課題** ニーズが増加傾向にある給与支払報告書のデータエントリー業務を処理するにあたり、短期間に作業が集中するため、限られた人員による運用では負荷がかかりやすい状況にあった。
- 解決法** 手入力によるエントリーをAI-OCRでの読み取りに置き換えるために「DynaEye 給与支払報告書OCR」を導入、既存のエントリーシステムと連携させて運用を開始。
- 効果** 7万件の給報のうち4万5000件を「DynaEye 給与支払報告書OCR」で処理したところ、同じ人員で作業効率が向上したほか、属人化の解消と時短にも成功。受託件数の拡大も視野に入れられるようになった。

自治体からのニーズが増加傾向にある中、人員に限りがあるため断るケースも発生

——キステム株式会社 システム技術本部 E0部 理事の岡山肇子さん、同部オペレーターの目加田桃さんと中森一恵さんにお話をうかがいます。給与支払報告書（以下、給報と表記）のデータエントリー業務に関して、はじめに現況を教えてください。

岡山さん 当社で給報のデータエントリー業務を手がけ始めた35年前からの大きな流れとしては、行政手続のデジタル化などに伴う減少傾向が見られます。ところが近年は自治体の人的リソース減少の影響で、再びニーズが増加しています。当社の現在の人員では処理件数に限界があるため、お断りするケースも発生しています。

——現状、どのくらいの量の給報をデータ化しているのでしょうか。

岡山さん 直近の実績では約7万件の給報を処理しています。

——人員が限られている状況でそれ以上を請け負うと、正確性の担保などに影響が出るということですね。

岡山さん その通りです。当社のデータエントリーサービスには正確性と迅速性、お客様のニーズに合わせたきめ細やかな対応、堅牢な情報セキュリティ対策といった特長があり、特に正確性はお客様からも高い評価をいただいています。一方、給報のデータエントリーは年に1回の季節業務で、煩雑な入力作業が短期間に集中するため、現在の人員で7万件以上の給報を処理すると業務負担がかなり大きくなります。その解決を図るため、令和7年度分から「DynaEye 給与支払報告書OCR」を導入しました。

給与支払報告書（A5サイズ）の一例。左端が総括表、その他が個人別明細書です。個人別明細書には100項目以上の記入欄があり、データエントリーは煩雑になります。



AI-OCR導入により負担軽減と時短が実現。受託件数の拡大も見込めるようになった

——総数7万件になる給報データエントリー業務は、いくつかの自治体から請け負っているのでしょうか。

中森さん 令和7年度は6自治体でした。すべて人口3万人から10万人規模の市町です。それらの自治体から、毎年1月上旬から3月末にかけて給報が1週間単位で、分割されて届きます。1週間ごとに受け取り・入力・データ化処理・返却を行い、返却と同時に次回納品分の給報を受け取ります。期間中はこれを繰り返します。

——「DynaEye 給与支払報告書OCR」導入前は給報の記載内容を手入力で登録していたのでしょうか。

目加田さん すべて「G-5Evo」に手入力です。給報を受け取ったら、帳票原本を見ながら情報を手入力するエントリーを行い、次に確認・修正をして正確なデータに仕上げるベリファイを行います。完成したデータはお客様の希望される体裁に整え、納品します。



手入力で行っていた頃の作業風景。「G-5Evo専用キーボード」とPC画面の間に給報の原本を置き、画面と見比べながら入力します。給報には項目が多いため、誤って項目がずれたまま続きを入力してしまうこともあったそうです。

——給報データエントリーは何人で担当していますか。

目加田さん オペレーター8人で、内訳はベテランが5人、経験の浅いメンバーが3人です。このうちベテランは正確なデータに仕上げるためのベリファイに対応し、経験の浅い者はエントリーだけを担当します。したがって本来ならば、経験の浅い者がエントリーした結果をベテランがベリファイで確認・修正して仕上げるという流れが理想ですが、エントリーの人員が少ないため時間がかかり、ベリファイに待ち時間が発生します。それを解消するために、ベテランの5人はベリファイのほかにもエントリーも随時担当しています。

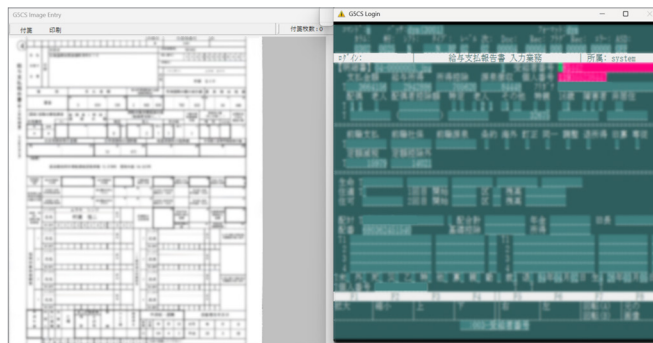
——正確性の担保がベテラン5人の肩にかかっている上に、エントリーもなさるのですね。残業が発生することもあるのでしょうか。

目加田さん あります。特に通常の仕事に給報の納期が重なること、残業の長時間化や休日出勤も発生します。

——「DynaEye 給与支払報告書OCR」の導入後、フローはどう変わりましたか。

岡山さん 給報を受け取ったら、スキャンして生成したイメージデータを「DynaEye 給与支払報告書OCR」で読み取ります。次に読み取り結果を各オペレーターに分配し、モディファイを行います。モディファイはOCR処理の結果を確認し、必要があれば修正を施す工程で、手入力によるエントリーに代わるものです。ソフトウェアが読み取れなかった箇所をモディファイによって補足することですね。モディファイが完了したデータはベリファイへと進みます。

なお、当社では「DynaEye 給与支払報告書OCR」を「G-5Evo」と連携させているので、モディファイとベリファイは、読み取り結果とイメージデータを並べて表示した「G-5Evo」の画面上で行います。



「G-5Evo」のモディファイ画面（サンプル）。給報イメージデータと読み取り結果が並んで表示され、要確認の項目にはピンクのマークが付きます。

——手入力によるエントリーからモディファイに移行したことで、どのような効果がありましたか。

中森さん 経験の浅いオペレーターでも、モディファイならばエントリーよりも速いスピードで処理できます。そのためベテランはモディファイを兼務する必要がなく、データの正確性を担保するためのベリファイに専念できます。これは大きな効果だと思います。

2点目として、給報の様式の新旧にまつわる問題が解決したことが挙げられます。給報は年度によって様式が異なります。そのため手入力では項目を何度も目で確認しなければならず、見間違いによるずれなどが発生する危険もありました。その点、OCR処理ならば項目を自動で認識するため、様式が変わっても常に正しく読み取ります。入力ミスが排除されたことで、修正にかかる時間も削減されました。

3点目は、オペレーターによる入力文字数と入力時間が大幅に減り、100枚あたり20分程度の時間が削減されたことです。これには同一画面上のイメージデータを見ながら作業できるようになったことも影響していると思われます。視線の移動が少なくなり、拡大して見やすくすることも簡単なので、作業効率が上がりました。

岡山さん 導入1年目の業務を通じて効率の向上を確認できたので、今後は受託する件数をもう少し増やしていきたいと考えています。給報は全国一斉の季節業務のため、当社への委託を希望されるお客様が数多くいらっしゃいます。冒頭にお話したような、お断りするケースをなくしていきたいですね。

